

取組事例

## にしっこはぐくみLINK



## 【取組内容】

妊娠周期や乳児月齢に合わせたタイムリーな情報と、西区の子育て支援に関する情報・相談先や育児講座・イベント等のお知らせを、一緒に配信します。

## 【活動実績や参加者の感想等】

令和元年7月7日からLINEアプリにより配信開始しています。出産予定日や誕生日を登録していただくことで、妊娠周期やお子さんの月齢に合わせた「お腹の赤ちゃんの様子」や「乳幼児の成長・発達」についての情報を、西区の講座やイベントの情報・お知らせと一緒にお届けします。令和2年8月末時点で累計2,653人の方々からご登録いただきました。

アンケートでは、回答者の約90%の方々から「登録して良かった」とのお声をいただきました。また、「イヤイヤ期で困っていたら、対処法がタイムリーに届いた」「夫にも登録してもらうことで予防接種や育児の話題を共有できて、不安が和らいだ」等の趣旨の感想もいただきました。

## 【今後の課題や目標】

各種子育て支援講座等の情報が、本当に必要とする保護者の皆さまに届いていない可能性があります。「にしっこはぐくみLINK」に、より多くの方から登録していただくことで、情報が必要な人により確実に周知できるようにしたいと考えています。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、「直接つながる」ことが難しくなっていると思うので、子育て世代の皆さんが互いに仲間となり、支えあって育児をしていくきっかけとできるよう、仲間づくりの場となりうる子育て支援講座の情報などを、積極的に配信していきます。



## 農福連携サポーター事業



### 【取組内容】

農福連携マッチング機関と連携を図りながら、「農福連携サポーター」を農場へ派遣し、障がい者へ農作業について指導を行うことで、障がい者の自立や就労に向けた支援を行います。

### 【活動実績や参加者の感想等】

令和元年度から取り組んでいる事業です。

初めはなかなか上手く作業を行えなかった方も、サポーターによる簡単なアドバイスでできるようになり、農作業技術は着実に向上しています。

また、農福連携サポーターの派遣により、農家から「安心して他の作業に取り組むことができる」といった意見や、障がい関連事業所職員からは「農場での負担が軽くなった」などの意見をいただいています。

### 【今後の課題や目標】

本事業に参加していただける農家や障がい関連事業所を増やし、引き続き農福連携サポーターを派遣することで、今後も障がいのある方が農作業に対する知識や技術を高め、継続的に就農を行えるよう支援を行っていきます。





## 【取組内容】

認知症の方が住み慣れた地域で暮らしていくために、次代を担う小中学生に認知症について正しい知識を学んでもらうことを目的として、小・中学校において認知症サポーター養成講座を開催します。

## 【活動の紹介】

地域包括支援センター<sup>\*</sup>の職員と地域の認知症キャラバンメイトが小中学校を訪問して、認知症の症状や認知症の方に対する接し方について学んでもらいます。クイズや寸劇などを取り入れ、分かりやすい内容になるように工夫をしています。

家に帰ってから家族と認知症について学んだことを話し合ってもらうことを促し、地域で認知症の方や家族が暮らしやすい環境づくりに取り組みます。

また、終了後にサポーターの証としてオレンジリングを生徒一人ひとりに渡しています。

## 【今後の課題】

認知症の方や家族が住み慣れた地域で暮らしやすい環境づくりのために、75歳以上の高齢者が急増する2025年に向けて継続して事業に取り組んでまいります。西区内の全小中学校で開催できるように各学校への周知などを丁寧に行います。

小学生から中学生を対象としているため、それぞれに適した内容となるように講座の内容を工夫して実施します。



## 誰でもどこでも健康教室



### 【取組内容】

“自分の生活習慣を見直し、継続的に健康づくりに取り組もう”をテーマに、コミ協等との協働で、地域の皆さまの身近な場所に伺い、体組成測定、食事や口腔のお話、運動実技を行う健康づくり教室を開催しています。

### 【活動実績や参加者の感想等】

西区では、地域団体からの依頼を受け開催する出張型の健康教室を平成21年度から実施しており、毎年、コミュニティ協議会や地域の茶の間など多くの団体よりご利用いただいております。

教室の参加者のアンケートより「体組成測定で自分の体を知ることができ良かった」「バランスのよい食事を意識し実践したい」「歯やお口のケアの大切さがわかった」「運動の実技指導がわかりやすく家で実践したい」など満足度ほぼ100%の評価をいただき、地域住民が自ら生活習慣を見直し、継続して健康づくりに取り組んでいくきっかけにいただいております。

### 【今後の課題や目標】

区民の皆様がいつまでも元気で健康的に生活できるよう、ライフステージに応じた健康づくりの推進を目指し、「新しい生活様式」の健康教育を取り入れながら、子どもから高齢者までと広く対象を拡充して地域団体への出張型の健康教室を実施していきます。



## 見守り訪問活動の推進



### 【取組内容】

見守りが必要な高齢者等の孤独感解消や安否確認のため、地域のボランティアや民生委員児童委員が乳酸菌飲料を持って訪問します（友愛訪問）。

また、歳末時期にはおせち料理を配ります。

### 【活動実績や参加者の感想等】

2019年度実績：実施団体：118団体 訪問ボランティア数：442名  
年間延べ訪問回数：17,011回

実際に友愛訪問時に体調の悪化に気づき家族や専門機関につなぐことができたケースも多く、地域の見守り体制の基盤となっています。

また、近隣に住む訪問ボランティアが声かけ、見守りをすることで、普段から気かけ、声をかけあう、支えあいの地域づくりにつながっています。

訪問ボランティアからは、「毎月の会話を楽しみに待っている方が多く、高齢者の方が笑顔で迎えてくれることが張り合いとなっている」「何かあったらいつでも相談してほしいと声をかけている」との声をいただいています。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、社会福祉協議会では「見守り電話活動助成」も創設し、直接会えなくても見守りを続ける地域の支援も行いました。

### 【今後の課題や目標】

高齢化や核家族化に伴い、さらに見守りが必要な人が増えていくことが予想されるため、訪問ボランティアなど友愛訪問に携わる住民を増やしていく必要があります。

友愛訪問事業を実施していない地域もあり、西区すべての地域で見守り体制ができるようにするとともに、友愛訪問活動を通して住んでいる地域内で見守る目を増やしていくこと、何かあったら助け合えるような地域の関係づくりをさらに進めていきたいと考えています。



# 緊急情報キットの設置



## 【取組内容】

高齢者等の緊急時に、救急隊員がその方の医療情報を迅速に活用し、緊急時・災害時に備えるため、冷蔵庫に入れる筒型の情報キットを自治会・町内会等を通じて配布します。

キットの配布を通じて自治会の見守り活動を推進します。

## 【活動実績や参加者の感想等】

のべ配布数：2,755本（2019年度末時点）

一人暮らし世帯、高齢者のみ世帯の増加に伴い、救急時に医療情報が分からず救急隊や病院が対応に苦慮するケースが増えています。緊急情報キットがしっかりと備えられていることで、適切かつ迅速な対応につながると、救急隊や病院の方からの声をいただいています。

自治会・町内会からは、自治会での個人情報の聞き取り、集約が難しいなか、緊急情報キットという形で緊急時や災害時に備えていただくことで、地域の安心感につながるとの声をいただいています。

## 【今後の課題や目標】

まだまだ周知及び活用が不十分であり、救急隊の活用事例も少ない状況であるので、あらゆる機会をとらえて周知、活用の声掛けをしていきたいと考えています。

また自治会・町内会の配布時に、漏れなく用紙に記入し所定の位置にキットが配置されているか確認していただくとともに、定期的に情報の更新の声掛けをすることで、情報の更新とよりきめ細やかな地域の見守りにつながればと考えています。